

●漁況情報

- みうら漁協松輪販売所によると、近年低迷が続いているマサバ漁は今年も不漁で、令和3年1月から8月までの水揚げ量は4.3tと前年同期の約19%と非常に少ない状況とのことです。9月に入って一部の船が東京湾で1日100～300kgを漁獲することもありましたが長くは続かず、9月24日現在でサバ漁を継続しているのは2隻とのことでした。9月24日発行の水産技術センターの沿岸さば漁況予報によると今後は前年並みで推移するとのことですので、少しでも漁獲が上向くことを期待したいものです。
- みうら漁協松輪販売所によると、8月以降、9月に入っても一本釣り漁船によるサワラの水揚げが続いているとのことです。サワラの価格は大で1,500円、中で1,200円とのこと。同地区では10隻程度がサワラ漁を行っています、マサバの不漁が続く中、サワラの漁獲が続くことを期待したいものです。

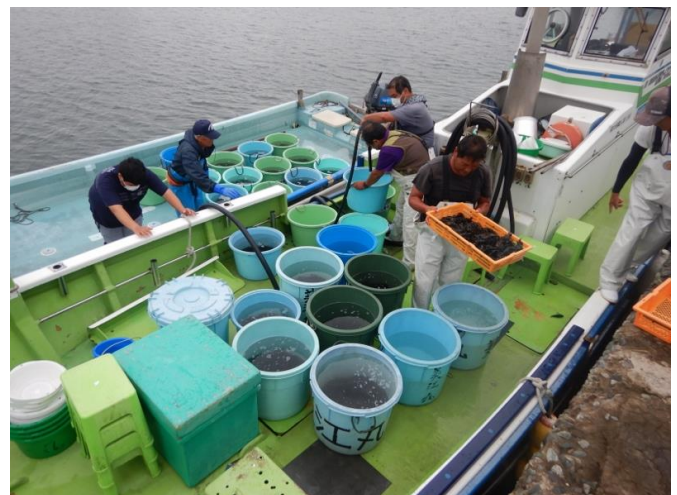
●浜の話題

- 9月中5回、長井と小坪地区の漁業者が生産するワカメ種苗の検鏡と育成小屋の環境測定を実施しました。水温低下に伴い小屋内を明るくして、10日毎に海水交換により養分を与えることにより、芽胞体の形成を促し、9月末には卵細胞や芽胞体も少しずつ見られるようになりました。



ワカメ種苗検鏡の様子

- 9月2日、(公財)相模湾水産振興事業団はメバル7～8cm・カサゴ10～12cm種苗各5,000尾、腰越漁協がメバル1,000尾を、腰越地先の適地に放流しました。メバル、カサゴ共に浅場の刺網でかかるので、放流にあたった腰越漁協漁業研究会の若手漁業者も、今後の漁に期待を寄せて放流しました。



メバルとカサゴ種苗放流の様子

- 9月2日、（公財）相模湾水産振興事業団は、小田原市漁協、岩漁協及び真鶴町漁協の協力で、カサゴ種苗計 15,000 尾（各 5,000 尾）及びメバル種苗計 15,000 尾（各 5,000 尾）を小田原～真鶴地先へ放流しました。カサゴ種苗は特に大きく、生残が良さそうのため、漁業者は今後の漁獲に期待を寄せていました。



カサゴ種苗



メバル種苗の放流

- 9月11日、横浜市漁協本牧支所の組合員の立会いのもとで、（株）横浜港埠頭によるカサゴ種苗（2万5千尾 全長 10～15 cm）の放流が本牧漁港内において行われました。
- 9月13日から横須賀市東部漁協走水支所及び9月16日から横浜市漁協金沢支所において、ノリの陸上採苗が開始されました。種付けされたノリ網は、冷却水の入った養生池に収容して種を発芽させ、養殖場の水温が低下する10月下旬ごろまで冷凍庫に保存します。



水車を用いて種付け中のノリ網 走水支所



養成池に収容されたノリ網 金沢支所

- 9月22日、長井町漁協で、トラフグブランド化に係る打ち合わせをしました。当日は福会所属トラフグ延縄漁を営む漁業者が集まり、ブランド推進 GL 担当職員立会いの下、生産・出荷・資源管理基準に合致する県下の延縄漁業者で「相模のとらふぐ」としてブランド化を目指すことになりました。これに併せて、同漁協ホームページに「相模のとらふぐ」PRページを開設しました。

「相模のとらふぐ」PRページ <http://jf-nagaimachi.info/free/torafugu-sagami>



トラフグブランド化に係る打ち合わせの様子

- 9月24日、横須賀市東部漁協は久里浜港においてカサゴ種苗（2万尾 全長 10～15 cm）の放流を行いました。なお、今年、放流されたカサゴ種苗はいずれの地域に放流されたものも、例年よりも大型魚のために、放流後の生残もよいのではないかと期待していました。



久里浜港内で行われたカサゴ放流の様子

- 9月28日、水産技術センターは8月に実施した城ヶ島沖禁漁区のアワビ稚貝調査の結果について三和漁協城ヶ島支所の漁業者に説明し、今後の調査の方向性やアワビ禁漁区の在り方について意見交換をしました。同支所からは放流したアワビ稚貝の生残について調査頻度を上げてほしい、禁漁区内の区域別のアワビの生息状況について調査を行ってほしいなどの意見が出されました。

●お知らせ

来年1月に予定していた「神奈川県漁業者交流大会」は、神奈川県・神奈川県漁連・神奈川県漁業士会の合意の上で、コロナウィルス感染対策のため不開催となりました。